

再生可能燃料に係る関連省庁・部局の動向

再生可能燃料に係る関連省庁・部局の動向の概要を整理する。なお、各動向の詳細については参考資料 1～3 に示す。

バイオマス・ニッポン総合戦略

(バイオマス・ニッポン総合戦略策定プロジェクトチーム、参考資料 1)

エタノール許容値検証試験結果について(案)

(経済産業省：総合資源エネルギー調査会第 8 回燃料政策小委員会資料、参考資料 2)

今後の自動車排出ガス低減対策のあり方について(第七次答申)

(環境省環境管理局：中央環境審議会大気環境部会、参考資料 3)

1. バイオマスの総合的な利活用に関する戦略

(バイオマス・ニッポン総合戦略策定プロジェクトチーム)

- ・ 経済財政諮問会議で取りまとめられた「経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2000」において、農林水産資源を活用したバイオマス産業の重要性が位置づけられたこと等を受け、農林水産省が中心となって内閣府、文部科学省、経済産業省、国土交通省、環境省の協力を得つつ、バイオマスの総合的な利活用に関する戦略(「バイオマス・ニッポン総合戦略」)が、平成 14 年 12 月 27 日に閣議決定された。
- ・ エタノールを含むバイオマス由来の自動車燃料については、「バイオマスの変換後の利用に関する戦略」として、以下のような具体的行動計画が定められている。

バイオマス由来の自動車燃料の円滑な導入に向けて、幅広い意見を踏まえながら、関係府省が一体となって規格化、供給体制の整備等の導入スケジュールを検討するため、バイオマス由来の自動車燃料導入のメリット・デメリットについて、我が国の事情も踏まえて適切な評価を行う。

バイオマス由来の自動車燃料の安全性確認、品質評価等を行うため、一定の利用システムの実証等を行う。

- ・ 現在、各府省局長級からなる「バイオマス・ニッポン総合戦略推進会議」および推進会議の下に設ける各府省課室長級からなる幹事会が設置されるとともに、バイオマスの総合的な利活用に関係する分野の学識経験者、団体、地方公共団体等から構成される「バイオマス・ニッポン総合戦略推進アドバイザリーグループ」による検討が進められている。

2．エタノール等のガソリンへの混合許容値について

（経済産業省：総合資源エネルギー調査会燃料政策小委員会）

- ・ 平成 11 年から販売された高濃度アルコール含有燃料による車両火災事故の発生を受けて、平成 14 年 11 月に総合資源エネルギー調査会燃料政策小委員会が設立されて自動車燃料の規制対象に関する検討が行われ、混合燃料に関する法規制の必要性について述べた中間報告がとりまとめられた。
- ・ この結果、これまで揮発油（ガソリン）および軽油、灯油のみを対象としてきた「揮発油等の品質の確保等に関する法律（品確法）」が翌 15 年 5 月 28 日に改正され、揮発油等とその他の物（アルコール等）との混合燃料についても品確法による安全・品質規制の対象となった。
- ・ 中間報告では 1 年以内に取り組むべき緊急・短期的課題の一つとしてバイオマス起源のエタノールのガソリン混合利用を取り上げており、この方針に基づき既販車での利用を前提としたエタノール混合ガソリンの検証が行われた。
- ・ 小委員会のもとに設置された専門ワーキンググループでは既販車両を対象とした許容値検証試験等が行われ、ガソリンへのアルコール等混合許容値は「エタノールは混合率 3%まで、含酸素化合物は含酸素率 1.3%まで」との結論がとりまとめられ、6 月 20 日に公表された。
- ・ 混合許容値は揮発油の強制規格に盛り込まれることとなり、8 月 28 日の改正品確法施行にあわせて、揮発油の規格に係る経済産業省令の改正作業が進められている。

3. 今後の自動車排出ガス低減対策のあり方について（第七次答申）

（環境省環境管理局：中央環境審議会大気環境部会）

- ・ 中央環境審議会大気環境部会では、自動車排出ガス低減対策に関連する自動車燃料品質の許容限度の見直しを行い、「今後の自動車排出ガス低減対策のあり方について（第七次答申）」をとりまとめた（15年7月29日）。
- ・ 答申案の中では、バイオマス燃料についてエタノール等の添加が既販車の排出ガスに及ぼす影響を確認した上で、含酸素化合物に係る許容限度を設定することとして検討が行われた。
- ・ この結果、ガソリンの燃料品質項目については、新たにオクタン価、蒸留性状、蒸気圧及び含酸化化合物を追加し、各項目について許容限度設定値を設けることとしている。
- ・ エタノール等の含酸素化合物に係る含酸素率の許容限度設定値は1.3質量％以下であり、これはエタノール混合率では約3.5体積％に相当する。
- ・ なお、E10等の今回の含酸素化合物の目標値を超える添加については、これに対応した自動車の技術開発状況や供給体制を見極めつつ、改めて検討するものとしている。

表1 ガソリンの燃料品質に係る追加項目と許容限度目標値

追加項目		許容限度設定目標値
オクタン価		89 以上
蒸留性状	10% 留出温度	70 以下
	50% 留出温度	75 以上 110 以下
	90% 留出温度	180 以下
	終点	220 以下
	残油量	2.0 体積％以下
蒸気圧		夏期用 44kPa 以上 72kPa 以下 H17 年から 65kPa 以下 冬季用 44kPa 以上 93kPa 以下
含酸素率		1.3 質量％以下 (エタノール混合率 約 3.5 体積％に相当)

出所)「今後の自動車排出ガス低減対策のあり方について（第七次答申）」